

あかがし

本山寺山森林づくりの会会報（第2号）



本山寺山森林づくりの会 活動状況

秦 康夫



平成 24 年 6 月、「本山寺山森林づくりの会」が正式に発足してから早くも 3 年が経過しました。近畿中国森林管理局との協定による活動予定面積は 44 林班、45 林班併せて 49.1ha という広大なものなので、まだ西半分は全然手を付けていませんが、北部の干害防備保安林約 5 ha の整備及び東海自然歩道沿いの間伐、南部の伐り置き間伐地域及び天然林（二次林）の林床整備作業はかなり進捗し、作業後の林床は、作業状況を見に来られた箕面の森林官も感心される程明るくきれいになりました。

それまでの森づくり活動が評価されて、平成 26 年度からは、国が民間団体の森づくり活動を支援する「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」の支給対象団体となりました。この交付金と JAC 関西支部の助成金を活用して資材置き場としての物置小屋も完成し、チェーンソー・フェリングレバー等、必要最小限度の機材・資材も整えることができました。

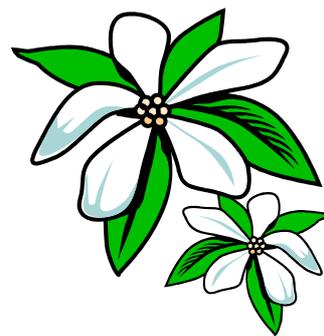
作業は、ひと言でいえば荒れた国有林の林床整備ということになりますが、その内容は間伐・間伐材を伐り揃えての土留め作り・危険木枯損木の伐採整理・つる切り・枯れ枝除去、更には登山道・作業道の水切り溝整備、鹿害調査・植生調査など多岐にわたります。作業場所には足場の確保が難しい急な斜面も多く、掛かり木の処理などそれなりの苦労もありますが、森づくりの楽しさは、なんととっても作業の成果が目に見える形で現れて来ることです。作業前の薄暗かった林床が、作業後、見違えるほど明るくなった姿を眺めるのは楽しいものです。27 年度以降も「安全第一」をモットーに楽しく森づくり作業を続けて行きたいと思えます。



＜活動実績＞

平成 25 年度		平成 26 年度			
作業実施日	参加者数	作業実施日	参加者数	作業実施日	参加者数
4 月 21 日 (日)	4 名	4 月 13 日 (日)	12 名	10 月 2 日 (木)	7 名
5 月 23 日 (木)	9 名	4 月 24 日 (木)	6 名	10 月 19 日 (日)	10 名
6 月 23 日 (日)	9 名	5 月 11 日 (日)	11 名	11 月 6 日 (木)	7 名
7 月 18 日 (木)	6 名	5 月 22 日 (木)	7 名	11 月 16 日 (日)	8 名
8 月 18 日 (日)	9 名	6 月 8 日 (日)	13 名	12 月 21 日 (日)	11 名
9 月 19 日 (日)	10 名	6 月 26 日 (木)	8 名	1 月 8 日 (木)	5 名
10 月 27 日 (日)	10 名	7 月 20 日 (日)	10 名	1 月 18 日 (日)	10 名
11 月 21 日 (木)	8 名	7 月 28 日 (月)	6 名	2 月 5 日 (木)	4 名
12 月 15 日 (日)	11 名	8 月 7 日 (木)	9 名	2 月 15 日 (日)	8 名
1 月 23 日 (木)	9 名	8 月 11 日 (月)	3 名	3 月 5 日 (木)	5 名
2 月 16 日 (日)	19 名	8 月 17 日 (日)	10 名	3 月 15 日 (日)	8 名
(自然観察会)		9 月 21 日 (日)	13 名		
3 月 18 日 (火)	6 名				

会員の声



「森づくりの楽しみ」 (小櫃徹夫)

私は、3年前に高槻のとなりの島本町で森林ボランティア活動を始めました。自然の中で、そよ風に癒されながら、力をあわせて行う森づくりの達成感は、何にもかえられません。体験した人にしかわからない楽しさがあります。

本山寺山森林づくりの会には、今住んでいる高槻でも同様の活動に参加したいとの思いから、昨年8月に入会しました。本山寺山はポンポン山へのハイキング道に接しており、ハイカーでにぎわう北摂を代表する山林のひとつです。このように山奥深いにもかかわらず人々が行き交う本山寺山は、森林保全のボランティア活動に適した場所と言えそうです。

神々しい鬱気(らんき)ただよふ本山寺山。多くの生きものが共生する美しい森林を次世代にも届けられるよう、森の声を聴きながら皆さんと協力し、これからもボランティア活動を続けていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

「本山寺山森林づくりの会に参加して」 (黒山泰弘)

本会の金井会長とは10年ほど前、「都山会」という山登りグループで出会い、ともに土木屋で現役時代の業務経験が重なることが多いこともあり、以後、登山をはじめとするアウトドア活動、土木にかかわること、そして繁華街での活動(?)など、様々な場面で親しくしていただいています。2年ほど前、とある会合(宴席?)で日本山岳会関西支部の公益活動の一環として高槻で森林保全活動をしていると聞き、以前から低山の山林や高山の花畑の衰退、ならびに都市近郊の雑木林の荒廃・竹林化が気になっていたこともあり参加させていただいています。ただ、まだフルタイムで働いているので日曜日のみで、しかも他の行事と重なることもあるため年5回前後の参加にとどまっています。そのため、皆さんの邪魔にならないよう気を使いながらも(?)本人は楽しく作業しています。ただ、森林保全作業は「危険がいっぱい」です。先日のチェーンソーの講習で再度強く認識しました。間のあいた参加で作業のやり方や安全上の注意点を忘れがちですので、その都度の作業前ミーティングでの先輩の皆さんからのご指示・注意は大変重要と実感しています。今後とも、無理をせず、皆さんと協調して、楽しく作業していきたいと思ひています。

「また新たな人と関わりが出来た!」 (猪川 誠)

もともとは、子供の頃から親の影響もあって野遊び好きで、釣り(川魚)に行つては焚火をして釣魚を焼いて食べたり、寝泊りしたりと言う事をするのが好きでしたが、友人から誘われて神戸市主催の六甲全山縦走大会に参加するようになり、その為の体力造りに各所で山歩きをする様になりました。

仕事で(工事関係)出張の先々休日を利用して山歩きをすると遊びの為に金を使わずに体力も付いて一挙両得?・・・これでは余りに申し訳ないと考え、何処かで楽しんだ分の料金を払わねばと思ひていたところ、社内ホームページで東京都の高尾山森づくりの会でのボランティア募集案内を見つけて参加したのがそもそもの始まりで、最初の頃は何も解らず参加していましたがそのうちに作業後の飲み会が楽しかったり、仕事の都合で(工事の工期が1年半もあり)様々な方とのコミュニケーションも取れて一年以上に渡り楽しく参加していましたが、仕事の都合で(工

事の完了の為) 大阪に帰ることになってから、大阪でも参加したいと申し出たところ、日本山岳会関西支部の「本山寺山森づくりの会」での活動を紹介して頂き参加するようになりました。

仕事はまだ引き続き頑張るつもりですので 遠方に出張の場合は作業日に行けない場合もあると思いますが、仕事も、山歩き・野遊びも、六甲全山縦走も、体力と気力の続く限り楽しみ続けます。これからもよろしくお願いします。

「今後とも、よろしくお願いします」(杉本佳英)

杉本です。参加するようになって、もうすぐ一年半になります。最初は自然観察の勉強になればと思って、見学のつもりで参加しました。森や樹木の知識もなく、いたって非力なものですから、まあぼちぼちと教えていただくつもりで、参加しています。

それにしても、人力ってすごいですね。すべて人力に頼る作業なので、森の大きさを考えると気の遠くなるような作業だと考えていましたが、作業ができた箇所を振り返って見わたすと、こんなに広範囲にやってこられたのかと驚いています。継続は力ですね。

世代的には、大先輩の方が大半なのに、皆さん、大変お元気で急な斜面を平気で上下して作業されているのに驚いています。もちろん、安全第一で作業されていますが、太い幹の伐採であれ、大きな倒木の処理であれ、躊躇なくとりかかれるのですが、ここらへんが山男の世界ということかなと感心しています。

えらいもので、最近では、どこの山を歩いても、森の手入れがされているか、整備をするならどんなことになりそうかと気になりながら、目がいくようになりました。

今後、少しずつ森の自然になじんでいけたら、いいなと思っています。

「地球環境問題は、人類共通の重要課題」(丸山喜代司)

私は、自然保護団体「HAT-J」六甲鶴甲で森づくり活動を行っていましたが中止になり、斧田さんから、本山寺山附近での森づくりの話があり、参加しました。初期の下見、植生調査等を行いました。その後、昨年2014年12月から復帰しております。現場には用具用物置があり、枝を組み合わせたテーブル等が作られて器用な方々だなと思いました。

急斜面での伐採された木の整理は、少しきつい面もありますが、作業後ふと全体を見渡すと、まるで公園のように整備されており、達成感があり疲れた体が安らぎます。とはいえ、私も徐々に年が重なってきて、足腰が「あれっ」と感じる時が多くあり、メンバーも若い人もいるが高齢の方も多く、山作業を通じ体力の維持、向上に努めたいと思います。

森づくりを通じて地球環境異常気象問題は、人類共通の重要課題として認識し、環境保全に、継続的、積極的に、小さなことでもコツコツと、微力ながら取り組める事に喜びを感じています。5月17日には、チェーンソーを初めて使わせてもらいました。木を伐るのは早いですが、危険度が高く、足元安定確認、この木を伐ればどんな動きをするか等々、使用する時は、危険予知対策をして行きます。

おいしい巻ずし、ありがとうございます「巻ろまん本舗」。具材の、しいたけがおいしい。32ヶ入りの卵焼き、初めて見た、昼弁当もおいしく、森林環境保全を皆さんと楽しく行って行きたいと思っています。

「私の自然保護活動」(阪下幸一)

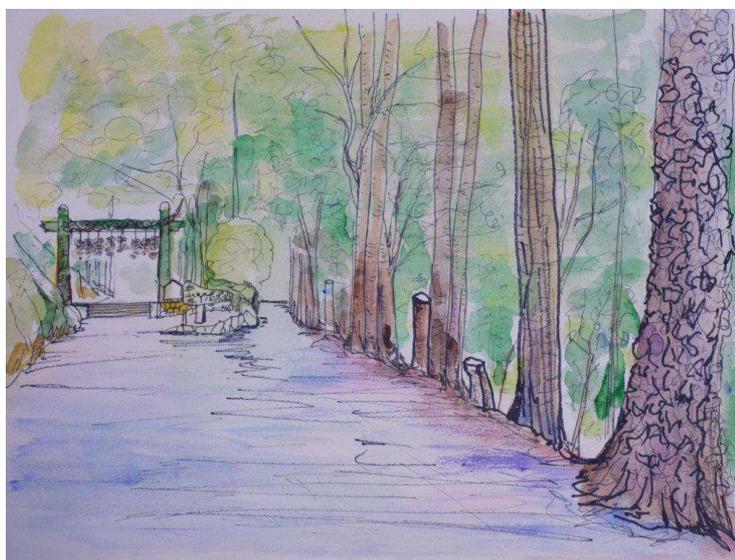
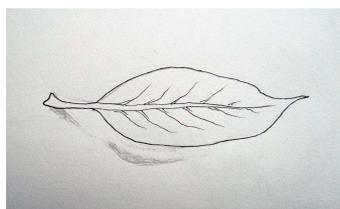
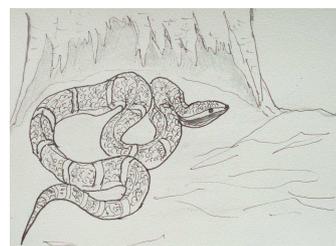
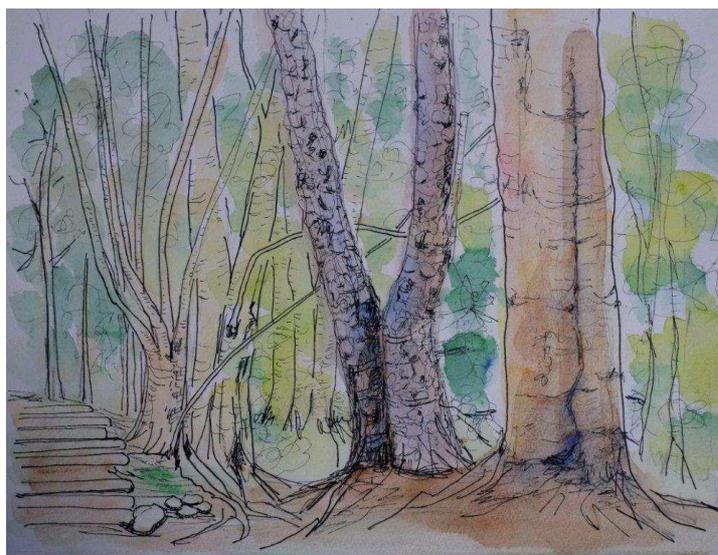
昭和43年に入会した「やまゆき会」から、指導者研修のため大阪府岳連に出向し、そこで出会ったのが斧田さんです。思えば長い付き合いです。ダイヤモンドトレルのチャレンジ登山が始まったのもその頃で、「やまゆき会」は竹ノ内峠を担当し、現在も続いています。

府岳連では岩登りや冬山登山などみっちり仕込まれたが、山スキーの優れた指導者、稲垣氏のお陰で山スキーの楽しさを知り、この歳になっても未だに冬のシーズンになると毎年山スキーに夢中になっております。

JACにはS56年に入会しました。神戸の岳人が中心の「ブナを植える会」が但馬の山々にブナを植える運動をしていて、私に但馬妙見山に植樹したいので八鹿町役場を紹介してほしいとの事で、スキー登山でお世話になっている八鹿町役場の人を紹介し、入会を誘われたのが自然保護活動の最初です。女房と共によく但馬各地へ出かけました。地元農家の人達との交流もできました。出雲大社の造営に妙見杉を贈った見返りに、出雲大社から贈られた三重塔がある妙見神社に供える赤米の田植えの体験や、神社のお祭りにも参加しました。お蔭で但馬各地に多くの知り合いが出来、但馬各地の山のブナの植樹や山スキーに府岳連やJACの人達を度々案内しました。

S58年には関西支部の役員となり平成9年には自然保護委員長に、大台、大峰の自然を守る会の田村義彦氏に背中を押され大台ヶ原、大峰方面の自然保護活動に取り組み、関西支部担当の自然保護全国大会を大台ヶ原で行いました。H18年に斧田氏と委員長を交代しましたが引き続き関西支部の自然保護活動に参加しています。

今年の5月連休に「ブナを植える会」入会当時に植樹した但馬の久斗村を訪れました。女房と植えた50センチ余のブナの苗も、30年を過ぎた今では、幹は15センチ、高さは3～4メートルに育ち、ちょっとした林に成長していて感動しました。「やまゆき会」で知り合って結婚し、長年行動を共にした妻の悦子がH25年に亡くなり一時は落ち込みましたが、多くの方々の励ましに何とか自立し元気な間は自然保護や山登りに頑張りたいと思っています。



本山寺山 植物調査結果

中村 康則

「本山寺山森林づくりの会」の活動における基礎資料とするため、春・秋2回にわたって本山寺山一帯の植生、植物相、自然資源を把握した。以下にその結果の概要を示す。

調査年月日：平成 25 年 5 月 13 日（春季）
平成 25 年 11 月 22 日（秋季）
場 所： 44 林班い、ろ、は 1 小班

表 調査結果（確認科種数等）

調査時期	確認科種数	重要種
春季	60 科 110 種	なし
秋季	61 科 103 種	なし

植物物調査結果

調査地域のある本山寺山は、大阪府高槻市北部に位置する。調査地域である本山寺山の森は、本山寺山の標高約 300m から約 640m の範囲に位置しており、低地帯から山地帯への移行帯にあたる。調査地域には主に、冷温帯に多く見られるモミ、ツガ、カシ類からなる天然林、スギ・ヒノキの植林、アカマツ林、竹林等が分布している。

現地調査の結果、春季 110 種、秋季 103 種、合計 73 科 148 種の植物種を確認した（その一覧を別表に示した）。確認種のほとんどは、大阪府の北摂地域に一般的な種であった。

暖温帯の常緑広葉樹林に生育するヤブニッケイ、シロダモ、ヤブツバキ等のほか、暖温帯上部から冷温帯にかけて多く見られるモミ、ツガ、クマシデ、イヌブナ、アカガシ等が確認された。

尾根筋や斜面上部等、比較的乾燥する立地には、アカマツ、マルバアオダモ、リョウブ、コウヤボウキ等のほか、アセビ、コバノミツバツツジ等のツツジ類が多く見られた。また、尾根沿い隣接している東海自然歩道沿いの明るい林床では、ササユリ、ミヤマウズラ等が確認された。

斜面中部から下部にかけてはモミ、ツガ、アカガシ等の巨木群の下層に、クリ、コナラ、ケヤキ、ヤマザクラ、カエデ類等暖温帯の落葉広葉樹林の主構成種や、ヒサカキ、ヤブムラサキ等の低木類が多かった。

浸み出し水がある谷沿いの岩場等では、ジュウモンジシダ、チャルメルソウ、ジンジソウ、ダイモンジソウ等が確認された。また、比較的水量の多い沢沿いや湿った林道沿いには、ネコノメソウ、ヤマネコノメソウ、ミズタバコ等が確認された。急斜面地や露岩地では、オオキジノオ、アオホラゴケ、イワトラノオ、ヤブソテツ等のシダ植物が多く見られた。

特徴的な種および景観

本山寺山の森林は戦後の一斉造林による伐採を免れた貴重な森林であり、大阪府に成立しているモミ・ツガ林として、大阪府のレッドデータブックにも指定されている。また、高槻市街地から近く、東海自然歩道として整備されていることもあり、身近なハイキングコースとして親しまれている。

このような地域利用の背景を踏まえて調査地域の植物の特徴を述べると、調査地域に特徴的な景観として、モミ・ツガの巨木群、カエデ類やイヌブナの紅葉（黄葉）があげられる。

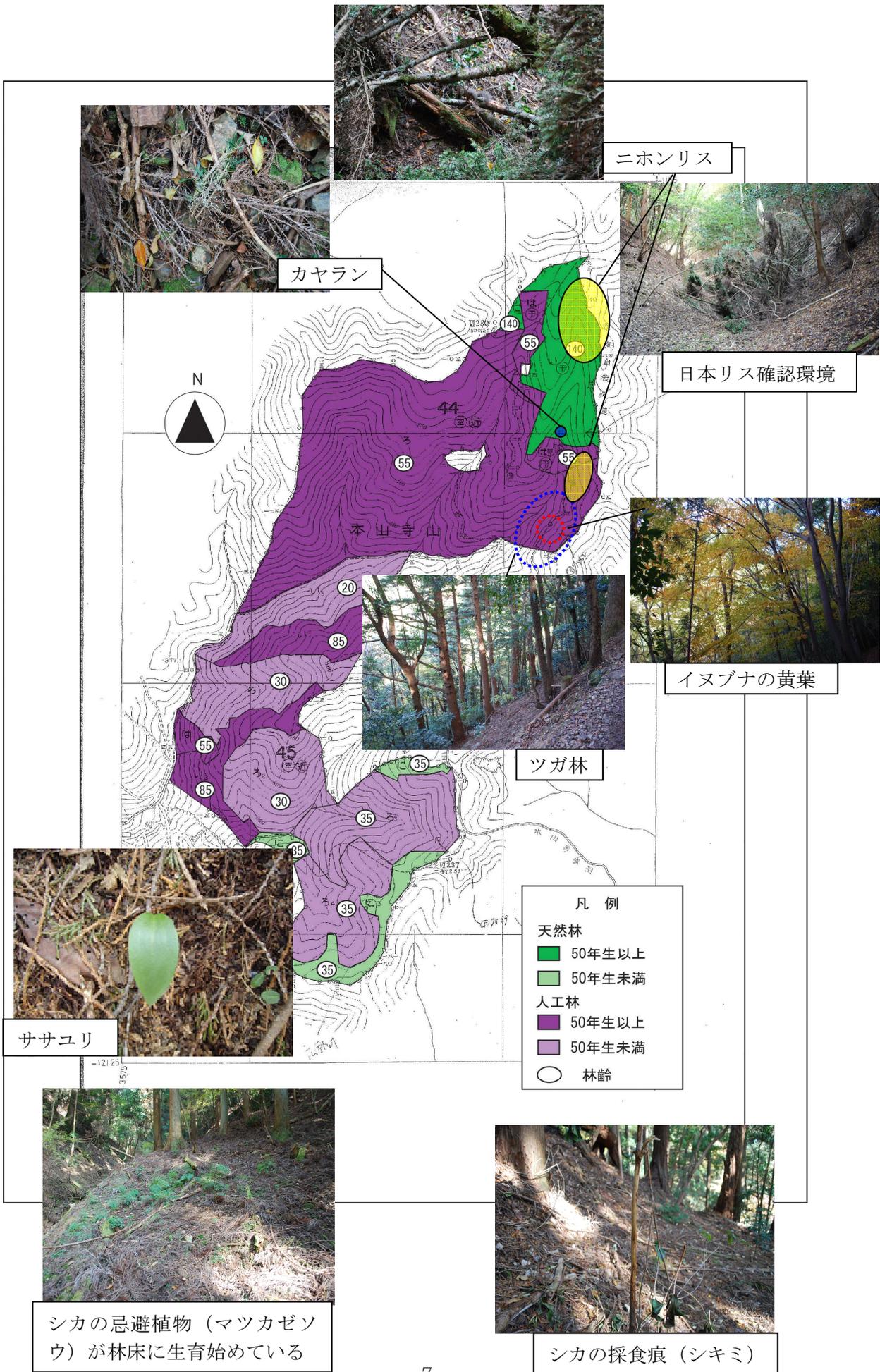
また、周辺地域では生育が少なくなりつつあるササユリ、カヤラン等の生育が確認されており、市街地に近い森林としては珍しく、自然性の高さがうかがえる。

その他の生物種

秋季植物調査時に、ニホンリスを確認した。

谷筋に溜まったモミの倒木や、ヒノキ林の斜面地等で活発に活動しており、越冬に向けての準備（貯食）を行っていると考えられる。

また、シカ被害も顕著に確認された。林床にあまり植物の生育が確認されず、シカの忌避植物であるマツカゼソウ、シキミ、オオバノイノモトソウ等が目立って確認されており、次第に優占しているようだった。またシカの忌避植物であるシキミにも、一部採食痕が確認された。



特別寄稿「森林づくりと山暮らし」（井上達男）

退職したら岐阜県郡上市の鷲ヶ岳山麓に建てたログハウスで山小屋生活を10月から始めようと準備を進めていた2012年、「本山寺山森林づくりの会」が6月に発足した。会はその後発展し活動も50回を迎えようとしている。森での作業に参加したいのだが遠くなってしまい、今はHome Page掲載作業をさせてもらっているだけだ。着実に整備されていく森林の姿を想像しながら機会を見つけて本山寺山を訪ねたいと思っている。



白山連峰と高鷲スノーパーク 鷲ヶ岳スキー場から

暮らし始めて三度の冬を越した今、ようやく山賊らしい生活のリズムを掴んだように思っている。場所は鷲ヶ岳スキー場の南に広がる明野高原の別荘地だ。近くの町、白鳥から12km、標高900mにある。窓の向こうに白山連峰を毎日見ることができる。それで『HaksanView』と名付けた。スペルから“u”を外して固有名詞としている。「薪ストーブの傍で揺り椅子にくつろぎ一杯やっている時、ふと北を見ると夕暮れの白山がアーベントロートに染まっている」という夢シーンをスケッチにして自分流のデザインで小屋を建てた。



雪の壁(2m)に囲まれた我が家 2015/1/4

悪友たちは買い物はどうする、医者はあるのかなどと生活の不自由さに加えて雪の心配をしてくれる。近くの町、北濃の白鳥まで車で15分、スーパー、ガソリンスタンド、コンビニ、病院、銀行、郵便局に役場もコンパクトにまとまってある。何をするにも待ち時間はない。田舎暮らし万歳だ。



暖かい薪ストーブと薪づくり

今年の冬は10年に一度の豪雪だったとか、2メートルを超える雪の壁に囲まれて越冬した。除雪に追われたが、日課としてスキーに通い、パウダースノーの森を思う存分滑降できた。国道と高速道路が雪で二度通行止めになったが、町が雪慣れしているのか生活道路は積るとすぐに除雪が終わり困ったことはなかった。加えて二度、半日強の停電があった。気温-15℃。近所に石油ストーブのみで生活している人があり、凍えそうなのでお招きした。停電でも我が家は薪ストーブで暖かい。ローソクの明かりで一杯やり、語らいを楽しみつつ電気が点くのを待った。

5月連休になってようやく庭の雪が消えた。あわてて野菜作りに花壇の整備、そして薪割にと忙しい一月が過ぎるともう梅雨に入ってしまった。豪雪の影響は新たに植えた庭木に打撃を与えた。リンゴ、梅、桃、杏子などの苗木が凍って沈む堅い根雪にことごとく幹から無残に折られてしまった。しかし、この地に自生しているナナカマド、山桜、クロモジなどの幼木は耐えた。雪解けとともに寝ていた幹が直立し瑞々しい新緑を見せている。



庭に出たウド

山の春は遅い、昨日やっと庭で山藨を籠いっぱい採集した。鍋一杯の佃煮を妻が作ってくれた。これでご飯が進む。先日は近くの山に出かけリュック一杯の蕨にウド、タラの芽さらに姫タケ(スズ竹)の筍を持ち帰った。蕨はストーブの灰でアク抜きし、酢醤油で味付けした。近所に配ったのは勿論、関西の親戚にも宅配した。まだ冷蔵庫に山となっている。

山菜の一番手は藨の薹、残雪が消えない4月初めから雪解けとともにつぎつぎに芽を出す。食事前に庭先で採ってきて食卓を賑わす。

コシアブラとコゴミが二番手だ。サッと湯通しして二杯酢で食べる。案外知られていないのがイラクサだ。葉の刺が痛いので軍手を二重にして採る。茎はグリーンアスパラに似た食感で美味しい。山菜が終わるころ、庭の小さな菜園にサラダ菜や春菊など葉物が育ってくる。梅雨が明けるとトマト、キュウリにズッキーニ、ナスといった、高原の気候で柔らかく腐葉土育ちで味が濃いものが採れる。

都会に住んで山に通った頃には野生動物に遭遇する機会が少なかった。だが今は一緒に住んでいる感覚だ。毎晩猪が空き地を掘り返す。蕨などの根や枯葉の下のミミズなどをあさる。翌朝にブルドーザーでやったのではないかと思えるほど掘り返された地面がその痕跡だ。幸い永住している我が家の庭は今のところ無事だ。しかしササユリ十数本が蕾を付けている。根は猪の好物なので心配している。骨粉の入った肥料を加えてユリやグラジオラスを植えたらタヌキの夫婦が早速掘り返してくれた。球根は食べていないので彼らは美味しいものにありつけなかったようだ。野ねずみは秋から冬に活躍する。雪の下にトンネルを自由に作って花壇に沢山通路を作る。チューリップやサフランなどの球根を食べる。春に待てど暮らせど芽の出ないチューリップに気付いた時は後の祭り。今年は50球ほど食べられてしまった。キツネとフクロウがネズミを捕食してくれる。どちらも夜に活躍している。テンは早朝に隣の山小屋のデッキで伸びをしているのとお出会う。鹿はもちろん良く出没する。しかし、この地の主はカモシカだ。別荘地の端に植林された岩場混じりの急斜面がある。そこに居ついているらしく朝夕に庭の中や道路を歩いている。好奇心が強くそばまで寄ってもじっとこちらを見つめている。



庭先に現れるカモシカとアカゲラ

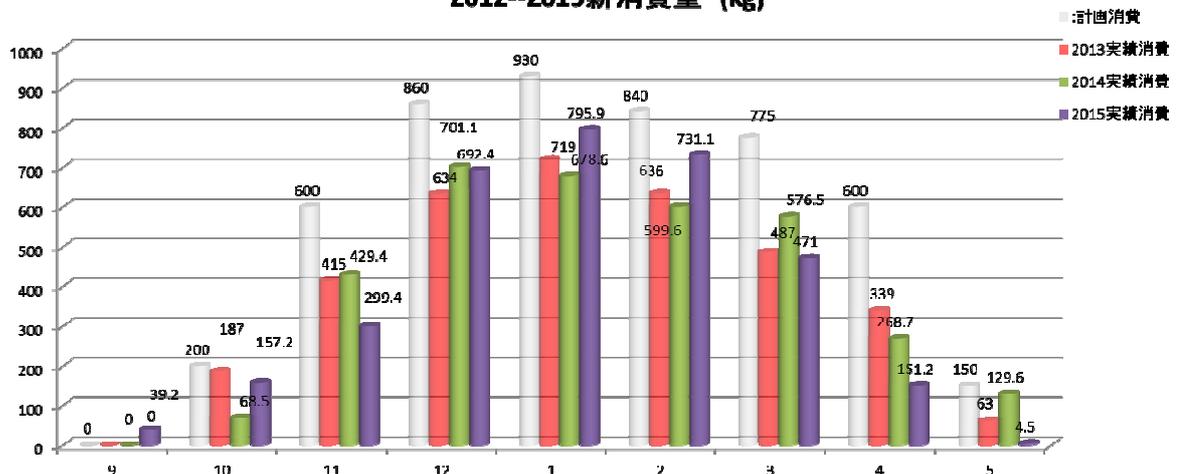
エゴの木があるが、コゲラが群れでやってきて実を啄む。晩秋まで実が枝先と地面にあるのでずっと通ってくる。アカゲラは高く伸びた松や檜の幹をけたたましくドラミングする。側の畑ではのんびり雉が歩く。朝は沢山の小鳥のさえずりを聞ける。ホトトギスは夜になっても”テッペンカケタカ”とけたたましい。

駐車場にマムシがとぐろを巻いていた。妻が車に乗ろうとして気づいて大きな悲鳴。大きな赤マムシだった。鳶口でコツンとやって道端に捨て置いた。鳶だろうか、銜えて飛び去った。シマヘビもヤマカガシも庭の蛙を追ってやってくる。土ガエルの大きなのが庭に居ついている。

今年はずいぶん収まったが、去年は二年続いてマイマイ蛾が大量発生した。樺も檜も枺もすっかり葉を食い尽くされて実は全くならなかった。熊の餌が無くなり、去年の秋から今年の春にかけて熊の目撃数が例年の数倍となった。残念ながら私は遭遇していないが、別荘地の幾人かが遭遇した。幸いけが人は出ていない。

さて、せっかくの山暮らしだから、暖房は料理もできる薪ストーブだけで暮らしてみようと決心した。ログハウスの間取で前述のコンセプトからストーブの位置と白山の見える窓の配置が最優先だった。ノルウェー製のクリーンバーン型薪ストーブを選んだ。曲がり無しの垂直二重煙突が二階の床と天井を貫いて約 7.5m の高さで屋根上に伸びている。赤外線がログ全体を温めてくれる。排気ドラフトにより室内が負圧にならないように地下室から吸気している。台所の換気扇を回してもストーブから煙が室内に漏れることはない。特に寒い日、外気温 -15℃、一日 16 時間で約 35kg の薪を焚く。建坪 32 坪の二階建ログハウス全室が暖かくなる。一階は 20℃、二階の一番奥の部屋で 15℃を保つことができる。10 月中旬から 5 月連休まで 180 日間使用して 3 年平均で 1 シーズン約 3.6ton の乾燥薪を消費している。生木に換算すると 5.5ton 程度になるのか。

2012--2015薪消費量 (kg)



薪の樹種は広葉樹を主とし、家屋の廃材も時々使う。檜、ミズナラ、樫、椎、桜、朴、樺、コシアブラ、檜などが薪として良い。なかでも檜がやっぱり具合がいい。火持ちが良く燃えやすい。ポイントは良く乾燥させることだ。針葉樹では杉の間伐材が入手しやすいが火持ちが悪い。松は高温で燃焼し、ストーブを痛めやすいし、煤が酷いので燃やさないようにしている。

薪ストーブの問題は薪の入手である。住いのある郡上市には薪ストーブ設置の奨励として設置補助金制度もあるが、割った薪の販売価格は石油ストーブと比較して石油代の1.5倍程度のコストと見積もっている。これでは別荘族が趣味でたまに使う程度なら良いだろうが、定住してシーズン中ずっと使用するには耐えがたい。真剣に普及させたいのなら石油コスト程度かそれ以下でなければならない。今のままでは導入する人は限定されてしまう。推進協議会にユーザーが入っていないので業者寄りの発想になっているのではないか。実際、地元で薪ストーブを使っている人に聞くと実家の山林から薪の原木を調達している場合が多い。原木を調達し自分で薪割するというのが結論だ。

私は送電線や道路などの掛り木処理をしている業者をお願いして原木を調達している。そこに至るまでにあちこち探してみた。ストーブ販売業者、薪専門店などから調達してみたが、コスト高であった。森林組合に掛け合ってみたところ、杉や檜を扱っていて広葉樹は滅多に手に入らないことが解った。現在コストを計算するとチェーンソーなどの投資を別として、16円/kg(乾燥薪)程度のコスト計算である。シーズンコストは $3,600\text{kg} \times \text{¥}16 = \text{¥}57,600$ となる。夏場のエヤコンは不要なのでカーボンオフセットを実現し、石油と比べてコスト削減できている。



チェーンソーで玉切りし、斧で割っている。薪小屋を手作りして現在20ton(生木換算)ほどの保管量となっている。2年間乾燥させると火付きが良く煤も少なく理想的だ。三年かかってようやく在庫を持てるようになった。

薪づくりを通じて森林づくりに関心が高まっている。最近福井県総合グリーンセンター(坂井市丸岡町)を訪問した。1000種類超の樹木が植えられていると言

うので勉強になろうと思ったが、多くの樹種を一度見ただけでは頭に入るはずもない。木は幹に触れ、葉を手を持ち、花を見て、実を確認し、さらに薪にするとようやく”知る”レベルになる。”解る”や”出来る”レベルにはまだ先は長い。自宅の周りは奥美濃から飛騨にかけて広大な植林や自然林が広がっている。じっくり森林づくりについて学び体験していきたい。日本の森林で全くのWildernessはまれにしか存在しない。そこは人間の手を加えるべきではないので自然に任せるエリアとして後世に残していきたい。一方、里山や山林は長年人の手で保全され活用されてきている。単に経済的規範のみで見えていくのではなく我々の価値ある文化資源として存在を維持していくことにも力点を置いて森林づくりにかかわっていきたいものだ。



そうそう、ストーブで焼くピザは天下一品、桜薪の香りや檜薪の香りが格別。本山寺山森林づくりの会の皆様、郡上市の林業視察を兼ねてHaksanViewへお越しください。ストーブに火が入る11月初旬がお勧めです。刻々と色づく紅葉と白山の初雪を眺めながらピザを肴に一杯やりませんか。

2015年6月記



本山寺山森林づくりの会会報「あかがし」第2号

発行者：本山寺山森林づくりの会

発行日：平成27年10月1日

発行所：公益社団法人日本山岳会関西支部

〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22 梅田東ビル3階304号

発行責任者：金井良碩 編集：秦 康夫・黒山泰弘 挿絵：薦田佳一

印刷協力：コニカミノルタ㈱

「本山寺山森林づくりの会」事務局連絡所 斧田一陽方 072-633-6556